

Le Monde de Keishin

CONTENTS

- 2 コラム
「慶進は一日にしてならず
変わりゆく慶進、変わらざる慶進」
- 3 「慶進に変わらず残していくものを」
14期生へのメッセージ
- 4-5 1st Stage | New 慶進
La Classe de Keishin
- 6-7 進学羅針盤
- 8 2nd Stage | 時の人
La Classe de Keishin
- 9 3rd Stage | 萩往還
- 10-11 同窓生
- 12 La Photo de Keishin
お知らせ
小さな本箱



NON UNO DIE KS AEDIFICATA EST

慶進は一日にしてならず
～変わりゆく慶進、変わらざる慶進～

vol. **8**
2017

慶進は一日にしてならず 変わりゆく慶進、変わらざる慶進

ローマはとっても疲れる都市です。

かつて学究の徒であった時分にロンドン、パリ、ローマを旅しました。三都市を同じようにまわりましたが、ローマだけは夕刻にホテルに戻るとベッドに倒れこみました。歩き回ったからというわけではありません。頭の中がパンクしそうな疲労感にぐったりしました。

なぜこんなにも疲れるのだろうか。ベッドに横たわると、いろんな理由が頭をよぎりました。しかし、詰まる所ここがローマだから、歴史が重なり合う都市だからこそ、頭がパンクするのだらうと考えました。フォロロローマーノの元老院では古代の、サンタマリアマッジョーレ大聖堂では中世の、ヴェネツィア広場では近代のローマを頭に描きます。行く先々で絵を変えなければなりません。ナポレオン3世の時代にオスマンが計画的につくったパリとは違います。ローマは、古代から現代までが途切れることなく、混沌としてつながり、変わりゆきます。

表紙絵のスペイン広場も変わりました。大規模な工事で様子が変わっただけでなく、今では『ローマの休日』のヘップバーンのようにジェラートを食べることはできません。環境保全のために飲食が禁止されています。

変わりゆくローマですが、変わらないものがあります。それはローマっ子の人々です。

ローマっ子はいつも陽気です。トラットリアでパスタを食べて、陽気に話しかけてくるおじさんは、翌朝駅で出会うと笑顔でハグしてくれます。オリンピック・スタジアムでラッイオとキエーボのサッカーを観戦するローマっ子は、コロッセオで剣闘士試合に湧くローマ人を彷彿させます。どんな皇帝や教皇や独裁者がいたって変わりません。ローマに住む陽気でたくましいローマっ子が都市を作っているのです。だからこそ、ローマは「永遠のローマ」と呼ばれます。

慶進中学校・高等学校では平成二十九年にKSアリーナが完成しました。新しい校舎での新年度が始まります。それは慶進にどんな変化をもたらしてくれるのでしょうか。新しい校舎が慶進に進化をもたらしてくれるはずですが、でも、きっとそこには変わらない慶進生がいて、慶進の歴史を作ってくれるはずですが、本号ではそんな慶進の変わりゆく世界、変わらざる世界、慶進の世界(Le Monde De Keishin)をお伝えします。

6年中高一貫教育 英知を尽くし、未来を切り拓く。

慶進では生涯にわたって役立つ学力を身につけるために、6年間で2・2・2の3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知ることから始まり、生徒たちが主体的に学習に取り組み、学内外の様々な体験活動で、豊かな人間性と、ともに生きる力を育み、次世代のリーダーとなる人材を育てます。

1st Stage

基礎学力養成期

中学1年生

中学2年生

2nd Stage

実力充実期

中学3年生

高校1年生

3rd Stage

発展応用期

高校2年生

高校3年生

慶進に変わらず残していくものを

平成二十九年二月二日、平成二十九年年度慶進中学校生徒会長選挙がおこなわれ、12期生一宮麻純さん（中三）が生徒会長に選出されました。新生徒会長が慶進の変わりゆくもの、変わらざるものを新しく慶進の制服に袖を通す14期生、そして在校生に伝えます。

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

みなさんはこれから中学生になるにあたって様々なことが変わっていきます。それは登校の仕方であったり、算数が数学に変わったり。小さなことから大きなことまで様々なことが変化します。その中で一番の変化は、先輩と後輩の関係、「上下関係」だと思います。特に運動部活動ではこれが徹底されているのではないのでしょうか。先輩には敬語を使い、挨拶をする。これは社会に出るにあたってとても大切なことです。新入生のみなさんも最初のうちは慣れないかもしれませんが、在校生は優しいので大丈夫です。

在校生にも新入生と同じように変化を体験してもらえよう、生徒会一同、試行錯誤を繰り返してこうと考えています。一回限りではないので、小さなことでも大きなことでも挑戦していきたいと思えます。

しかし、中には簡単に変わってはいけないものもあります。一

生徒会長 12期生

一宮 麻純（中三）



番重要なことは規則正しい生活です。生活の基本でもあり、あたり前だと思いかもしれませんが、中学生になると勉強量も増え、帰宅する時間も遅くなり生活習慣が乱れることが多々あります。特に一年生の一学期は多いと思います。夜遅くに寝て、授業中眠くて集中できず、何も聞いていなかったというのでは元も子もありません。そして、課題に手をつけなくなることは悪循環の始まりです。このことを阻止するためにも早寝早起き、朝ご飯をきちんと食べるなどのサイクルはとても意味のあることだと思います。

このように、慶進にも重要であるからこそ変わらずに受け継がれてきたものがあります。例えば、慶進中学校で行うスポーツフェスティバルで、行進中に行う「かしら右」という行為

です。全校総会では、「行う意味はあるのか？」という意見も出たのですが、やはり行進を突き詰めていくととてもきれいに見えます。手足がそろい、頭と手の角度がきまつているとてもカッコいいのです。この「かしら右」は代々スポーツフェスティバルでやっていることで、小さなことですが、行進をかつよく見せることについてはとても大事なことです。改善していくこと、変わら

ず受け継いでいくこと、どちらもとても必要なことですが、選別することは大変難しいです。だからこそ、生徒会・中央委員会として生徒のみなさんで意見を出し合い選んでいくことが大切です。特に十二期生のみなさんはこれから中学校のトップとなります。学校を導く最上級生として、頑張ってください！

14期生へのメッセージ

ようこそ、慶進へ！14期生の皆さん、入学おめでとうございます！

ここから、君たちの新たな6年間が始まります。自信をもち、胸を張って学校生活のスタートを切るために、まず目の前のひとつひとつのことを『やってみよう』の精神で懸命にチャレンジしていきましょう。例えば、勉強では予習・授業・復習のサイクルを続けていきましょう。日常生活では、早起きしてもらうのではなく自力で起床してみましょう。クラスの係りや行事の実行委員などに積極的に参加し、皆のために動くことも大切です。

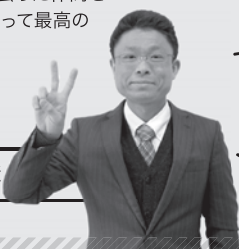
大きく環境が変わることに、期待や不安、様々な感情を抱えていると思いますが、『前向き』に、『素直』な気持ちで、『一生懸命』取り組むことで良いスタートが切れます。

同じ学年の仲間や頼れる先輩、先生たちもいます。みんなでよい学校生活を作り、その中で様々なことを学び、成長していきましょう！

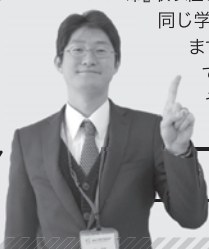
慶進中学校・高等学校 中高一貫コース14期生のみなさん入学おめでとうございます。

みなさんがこれからの6年間の学びの場所として慶進を選んでくれたことを心から歓迎するとともに、慶進が皆さんの人生において本当に価値のある学びの場所となるよう、担任として、そして慶進一丸となって全力で支えていきます。しかし、みなさん一人ひとりに忘れないで欲しいことがあります。みなさんの人生において慶進に入学するということは自分自身の大切な選択であるということです。慶進で学ぶことを選択したことに誇りを持って、これからの6年間で本当に充実した時間にしていくという強い意志を今日もう一度確認してください。

慶進は「学びの場」です。互いに高めあう最高の仲間があなたの周りにはいます。自分を信じ、出会った仲間を信じ「悩み、考え、進み、それぞれにとって最高の6年間でスタートしていきましょう。



中学1年2組担任 西山 智彦



中学1年1組担任 林 智史

La Classe de Keishin

電子
黒板13期生
橋本果保(高二)

私たちの英語の授業で登場するものに「電子黒板」があります。普段は問題の答えや教科書の文章を映し出します。また、流れてくる音声に合わせて早く読んだり、暗唱したりして英文をすらすらとと言えるように練習もします。

これだけでも効率良く、より多くのことが身に付くのですが、もう一つの大きな利点があります。それは「映像を見ることが、授業をより深められる」という点です。教科書には、私たちの身近には無いことも登場します。例えば、アメリカ合衆国の「タイムズ・スクエア」やハワイ諸島にある「火山」です。文章を読むだけでは分からないことを映像で見ました。タイムズ・スクエアで楽しく新年を迎えようとする人のざわめき、ハワイ諸島の美しい夜空に向かってそびえる火山。電子黒板の向こうには、ひと言では言い表せないようなまだ見たことの無い世界の美しさと、たくさん文化や考え方がありました。

年々世界がグローバル化していく中で、海外の方と話す機会は増加しています。英語で会話する時に、授業で電子黒板を使いながら学んだ様々な考え方や美しい景色、文化を思い出してお互いを理解し合えば、より良い関係が築け、英語がもっと好きになると思います。

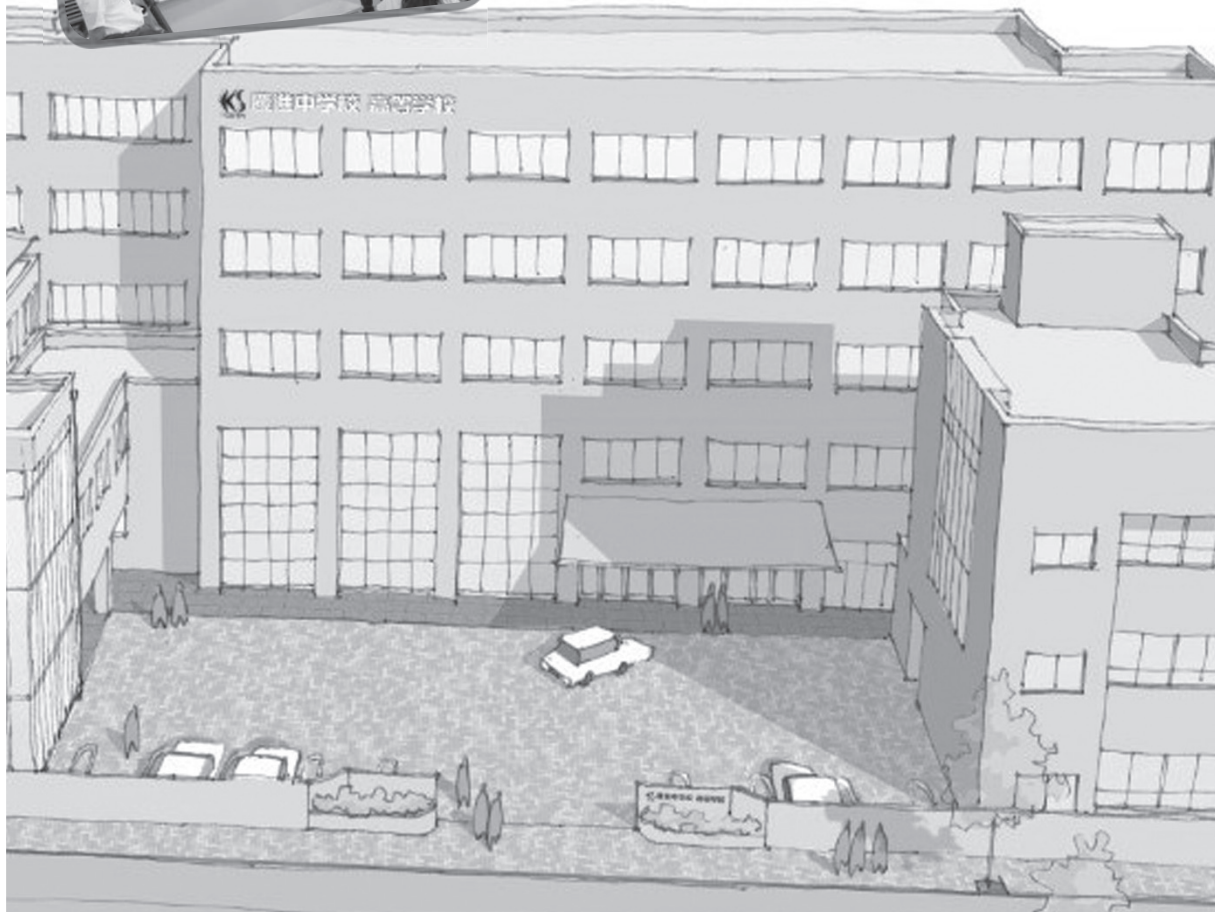
最初は電子黒板を「効率よく勉強するためのもの」としか思っていまさんでしたが、実は「考えを深め、世界へ向ける視点を増やすもの」だと気付くことができました。



▲スタディールーム ひかり



▼電子黒板



New / 慶進

1st
Stage

平成29年2月に慶進中学校・高等学校の全ての改築が完了し、新しい慶進の校舎が完成しました。知的好奇心をくすぐる『学びの場』、安心・安全・快適な『生活の場』、出会いや繋がりを大切にする『コミュニケーションの場』という3つのコンセプトを掲げて、改築を進めてきました。平成24年7月に4号館、平成25年8月に本館、そして先日は体育館改築及び4号館の増築が完了しました。これにより全ての校舎の耐震化が完了し、生徒の「夢の実現」のための教育環境が整備できました。このNEW慶進で慶進生はどのように成長し、慶進中学校・高等学校を進化させてくれるのでしょうか。また、NEW慶進にどんな慶進らしさが宿っていくのでしょうか。NEW慶進の一場面をお伝えします。慶進を訪れた際は、ぜひNEW慶進をご覧ください。



▲KSアリーナ1F



▲スタディールーム さくら

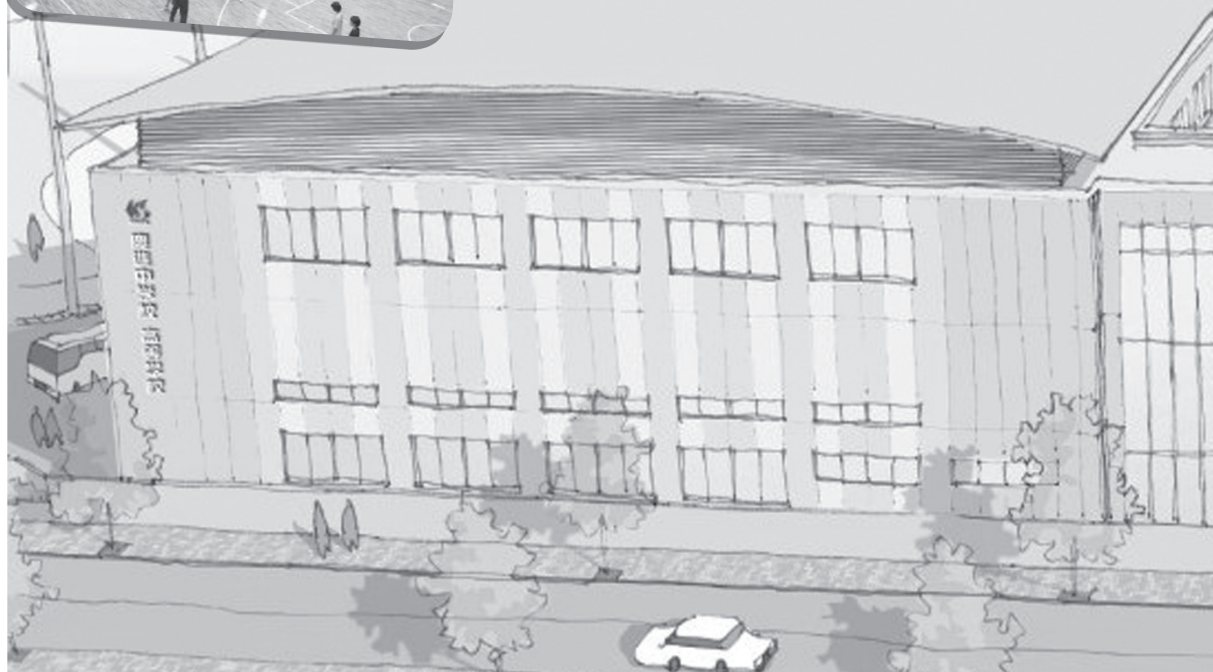


▲KSホール

▼コミュニケーションスペース



▼KSアリーナ2F





進学羅針盤

8

期生



酒見 昌宏

九州大学 医学部

受験勉強の時期に「志望校決定」については、自分で自分の将来と
どんな将来を望むのかを考えて、この時期に結果は半分出る。
決まってるんじゃないか、これも思いますが、それはお母さん次第です。
私も今は強弱不明、特にこれに悩んでアドバイスしかできません。
一つ目は、ノートのとり方です。『東大合格生ノートのとり方』という
本を是非読んでください。
二つ目は、英語の勉強を取り組むことです。高いレベルの段階で
極めてください。
三つ目は、通うことも高2の秋には、志望校の合格最低点を知り、
目標点を決めるところです。模試での意識が変ります。

6

期生

自分が願ったことが実現できなかったとしたら、言い訳はせずに自
分の願い、情熱が弱かったということを理由にすべきだと思います。
人のせいにするわけでもなく、状況のせいにするわけでもなく、もっと
やれたんじゃないかと。そうやって自分の失敗と正面から向き合うこと
でより高い所へと辿りつけるんだと思います。

受験は個人の戦いです。ただ、試験を受けに行くまでに受験生はそ
の友人達や家族、先生方に多分に支えられていることも事実です。在
校生の皆さんはこのことを忘れずに、ひとりで不安や焦りを抱え込む
のではなく、互いに助け合って自分の進みたい道へと歩んでいってくだ
さい。

兼坂 雄太 東京大学 理科二類

4

期生

勉強のスタイルは人それぞれです。このやり方でいいのかなと思っ
ている人、どんなやり方でもきっと不安は残るので、これでいいはず
だと信じてがんばってください。大切なのはやっぱりスタイルより中身
です。今、目の前にあるものを大切にしてください。

鋤崎 有里 京都大学 法学部

2

期生

授業をしっかりと聞けば合格する。
宿題もやる。

築田 優毅 九州大学 理学部

三月二日、八期生が巣立っていきました。東京大学、国公立大学医学部医学科、その他難関大学など、今年も多くの慶進生が厳
しい受験を乗り越え、志望大学への進学を果たしました。大学合格報告会では、卒業生から在校生へ、高校生活や受験に関する
アドバイスを伝えてくれました。慶進では、これまでも多くの卒業生が合格体験記として後輩へのメッセージを残し、受け継い
できました。今回は、その一部を紹介し、在校生の皆さんにその想いを感じてほしいと思います。

二〇一七年
中高一貫コース

大学入試合格実績

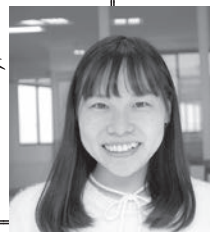
国立大学・大学校

()は医学部医学科	防衛大学校	長崎大学	九州大学	山口大学	島根大学	広島大学	岡山大学	大阪大学	名古屋大学	東京海洋大学	電気通信大学	東京外国語大学	東京大学	千葉大学
9	1	2 (1)	5 (1)	16 (6)	1	3 (1)	1	1	1	1	1	1	2	1

合格体験記
後輩へのメッセージ8
期生

第一志望の大学に合格したことは、私にとってゴールでありスタートです。何度も何度も諦めそうになったけれど、最後までやりきって本当によかったと思っています。自分の受験番号を見つけたときは、涙がとまりませんでした。いつも応援して背中を押してくれた先生方や友達、家族には感謝の気持ちでいっぱいです。一人でも多くの後進生が夢のスタートラインに立てるように応援しています。

内山 莉緒
東京外国語大学
国際社会学部

7
期生

学校の授業をおろそかにせず、定期テストも点を取り、問題集や過去問をひたすら解く、ということができれば志望する大学がよほど上手にいくと思います。ただし、以上のことを始める時期は遅くとも高校内容の授業が始まった時でないとそれなりに厳しいことが待ち受けるでしょう。

大学受験に現役で真に成功した人たちは皆、僕の知る限り、以前から絶え間なく努力してきた人達ばかりです。

川本 鳳璃 九州大学 工学部

5
期生

何よりも大切なのは、自分と正面から向き合うこと、そして最後まであきらめない気持ちです。自分の目標が定まれば、勉強も自ら進んでやっていけます。まずは目標を定めてください。塾に行かなくても自分のことを分析し、計画を立てて実行、反省を繰り返し、分からないところは先生方に質問をして理解すれば確実に学力は伸びます。自分を信じて頑張ってください。

山田 悠介 広島大学 総合科学部

3
期生

皆が思うより受験は大変だし、この気持ちはやってみないとわからないと思う。また、2年の春休みに志望校の問題を解き、今の自分との差に圧倒されるとよい。ショックを受けることができれば、晴れて受験生となると思う。受けなければ、相当な実力があるか、まだ仮受験生だと思う。

ちなみに自分は6月に気が付いた。

磯部 拓一 大阪大学 基礎工学部

1
期生

私は大学受験に合格するために何か特別なことをした、とは思っていません。塾にも通わず、家庭教師もつけず、人より勉強時間がとびぬけて多かったわけでもありません。ただ6年間宿題をし、授業を受け、英語は必ず予習をし・・・つまり、学生としてやって当然のことをこなしてきただけです。この日々の積み重ねと先生方のアドバイスや励ましのおかげで合格できたのだと思っています。学校での地道な学習が合格につながる、特に慶進ではそれが可能であるということを、私は自分自身の経験をもって証明したつもりです。最後に、いつもマイペースで、そしてポジティブでいてください。それができなくなった時には先生の所へ行って元気づけてもらってください。

秋友 紫苑 神戸大学 農学部

3月31日現在

岩手医科大学	福岡大学	立命館大学	同志社大学	関西大学	関西学院大学	法政大学	中央大学	立教大学	青山学院大学	明治大学	東京理科大学	上智大学	慶應義塾大学	早稲田大学	主な私立大学	長崎県立大学	下関市立大学	兵庫県立大学	大阪府立大学	都留文科大学	公立大学
1 (1)	5	15	1	3	1	2	4	1	2	2	7	4	2	2		1	1	1	1	1	

2nd Stage

時の人

修了論文・金賞「学力は遺伝するのか」
追求することは楽しいこと

私は今回「学力は遺伝するのか」というテーマで修了論文を書きました。始めはなかなかしつくりくるテーマが浮かばず、

「ずっと決まらなかったらどうしよう」という焦りと不安でいっぱいでした。だから「これだ」というテーマが見つかったときは本当にうれしかったんです。

しかし、いざ書き始めると、資料が少なく困ったり、内容に行き詰ったりして、途中でテーマを変えることを何度も考えました。でも、今は最後まであきらめず書き上げようと思ったんです。

これまで私は、始めは「おもしろそう」と飛びついても長続きせず、結局中途半端なまま終わってしまうことがよくありました。でも今回は内容や話の展開、パワーポイントにもこだわって自分の納得いくまで頑張れたと思います。表彰式で自分の名前が呼ばれたときは今まで努力して本当に良かった心から思えました。

私の論文がよりよくな



のために、たくさん協力してくださった先生方や、パワーポイントが苦手な私を手伝ってくれたり、緊張していた私に「頑張れ！」と声をかけてくれた多くの友達には本当に感謝しています。たくさんの方の支えがあったからこそ、金賞という賞をいただけるのだと思っています。

私は今回の経験を通して、自分が気になったことは何事も調べてみることの大切さを改めて感じました。私は、各教科に遺伝の差があったり、男女間での学力の差があったりなど、とてもおもしろい発見をすることができました。このテーマを選ばなければ、ずっと出会うことのなかった発見かもしれないですね。興味を持ったことをとことん追求してみることは楽しいことが分かりました。この経験を高校生になっても生かしていきたいと思います。

11期生 小野島帆帆(高二)

慶進では多くの慶進生が自分の将来に向けて輝いています。この「時の人」のコーナーではそんな輝く慶進生を取り上げていきます。今回は、「学力は遺伝するのか」について修了論文を書いた11期生小野島帆帆さん(高二)、「テーマ発表会で文学研究として「ラプンツェル」の果てまで行つてQ」を発表したグループを代表して10期生原千夏さん(高二)を紹介します。

テーマ発表会・金賞「ラプンツェル」の果てまで行つてQ
大切なのは深い関心と愛情

私たちの班は今回のテーマ発表会で、ディズニー映画「塔の上のラプンツェル」の原作、グリム童話集にある「ラプンツェル」を用いて実際に文学研究を行い、その面白さ、その過程を知ってもらおうというコンセプトで発表をしました。

実際に誤解されている方も少なくないと思うのですが、文学研究とは、ただ本を読んで感想を書くだけではないです。作品を読んだうえで比喩や文化についての記述を探し、そこから時代背景や思想などを考察して調べ、そして客観的な目線でもう一度作品を読む、これが文学研究の主な過程です。

発表まで約一か月

という短い時間の中で様々な文献を読み込み、この場面からはこう読み取れるのではないかとという議論を時には喧嘩になりそうなど、何度も重ねた結果、金賞という素晴らしい賞を頂くことができました。文学研究を経験して



▶左から原千夏さん・石田美優さん
酒田紀佳さん・沼春帆さん

私が感じたことは、物事に対して深い関心と愛を持って行うことは、とても大切なことではないかということです。今回私たちが金賞を頂くことが出来たのは、私たちが文学研究というものに対して深い関心を持ち、いかに聴衆の方に理解してもらうかを何度も考え直すことのできる愛情を持っていたからだと思っています。誰か一人でも、別にこのくらいでもないや」という適度な気持ちを持つていたら、このような結果にはつながらなかったのではないかと感じます。

10期生 原 千夏(高二)

La Classe de Keishin

スピーチコンテスト

「Speech Journey」 ダグラス・パーキン

The eleven year "Speech Journey" has been a very short yet a very long one. I first started working with Mr. Sekitani 11 years ago helping students prepare for English speech competitions. I had no idea really what was going to happen over the following years of just over a decade. In the beginning I found that making speeches would let me create something special, and that the students would simply remember the words and act out the meanings. I was so wrong, and I now know that I did not help my students in the ways that they needed. Working with Mr. Sekitani, we've developed a very strong team oriented system which finds students with great potentials, and then creates speeches and speakers that we are very proud to present to our local community and if able to the national stage in Tokyo. The Keishin Speech Club has been more successful than we had ever imagined, and its success comes from a strong team of Junior and Senior students, hard working teachers, and devoted parents who want the best for their children. Trophies from competitions are a wonderful thing, but the real success for our students comes from within, as they grow as individuals, who want to share their thoughts and feelings to others and by doing so change the world one audience member at a time.

※日本語訳はHPに掲載しています。



<http://www.keishin-ug.ed.jp>

Speech Journey

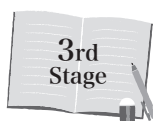
11 年間に及ぶ「スピーチ・ジャーニー」は、とても短くもあり、とても長くもありました。

この旅の始まりは 11 年前です。慶進生が英語スピーチコンテストの大会に出場する手助けを関谷先生と一緒に始めたのが旅の出発でした。10 年近く続いたこの旅において、どんなことが起こるのか全くわかりませんでした。

当初、スピーチの作成にあたっては我々が特別なものをつくり、慶進生は単純に字面を覚え、その内容を演じるものだと思っていました。だが、それは間違いでした。我々は慶進生が必要とする助けを与えることができていませんでした。

関谷先生と助け合いながら、我々は実に強いチームに成長しました。大きな可能性をもつ生徒を見出し、スピーチを作り、県大会や、時に東京の全国大会に出場するにふさわしい生徒を送り出すシステム作り上げたのです。慶進のスピーチクラブは我々が想像した以上の成功を収めました。それは慶進生、一生懸命な先生方、子どもたちの成長を願う献身的な保護者が作り出した強固な結束力によるものです。大会で勝ち得たトロフィーは大変すばらしいものですが、慶進生が本当に手にした成果は、他者と思考や感情を共有したいと思えるようになった個人としての成長だけではありません。共有したいと思うことで、彼らは同時に一人ひとりの聴衆という単位で、世界を変えていったのです。

ダグラス・パーキン



萩往還

平成二十八年四月二十八日、9期生と12期生が萩の松陰神社から山口までの萩往還約26kmを歩きました。中学生と高校生が一緒にする行事。まさに慶進の中高一貫コースならではの行事です。高校生は中学生をみて、どんな自分の変化を感じたのでしょうか。中学生は高校生と歩いたことで何が変わったのでしょうか。ひよっとしたら維新の頃から変わることない萩往還で何を語ったのか、9期生 竹下 優希くん(高三)と12期生 表田 大河くん(中三)に聞いてみました。

萩往還を歩きました。
竹下くんは二回目ですが、どうでしたか？

竹下 距離が長いから精神的にも身体的にも苦しかったです。

何で精神的に苦しかったのですか？

竹下 歩いている途中、山道も多く、まだゴールがないのかと思いつながら歩いていたので、ノイローゼ気味になり、身体的にも苦しくなりました。でも一緒に勉強する友達と歩くことができていい思い出になりました。

表田君はどんなことを感じましたか？

表田 距離は長かったです。が周りの友達と一緒に歩いて楽しかったです。

長い距離を歩く中で友達と一緒に歩くというのはとても大事なことでしたか？

表田 自分は「しりとり」を

しながら歩いていたので、距離などはあまり意識せず大事とかあまり重視していませんでした。

竹下 友達と距離のことは考えず、他のことを話しながら歩いていました。

今回は先輩と一緒に歩くということでしたが初めてお互いを見た時、表田君は竹下君のことをどんな風に思いましたか？

表田 初めて高校生と対面したので、少し怖いと感じていましたが、会話をしているうちに、雰囲気がかつてきたので、一緒に歩いて楽しかったです。

竹下君はどうでしたか？

竹下 すごく素直な人達だと思いました。それは、僕が実行委員長を務めた歓迎会で、準備不足でなかなかうまくいかなかったのですが、素直に聞いてくれて、お願いも

しっかり聞いてくれたので、その後はスムーズに進み、本番でも会話が飛び交っていた素直な学年だと思いました。

歓迎会があったわけですね。表田君、歓迎会はどうでしたか？

表田 今まで交流のなかった高校二年生を知ることが出来て良かったです。

高校二年生と交流を持つことで自分の中で何か変わったことがありますか？

表田 将来について考えていませんでしたが、交流して高校生たちのようになりたいたいと思うようになりました。

例えばどんな風に、この人を見てこんな風になりたいと思いましたか？

表田 みんなという時に率先して話をしてくれたので、そういう所を見習いたいと思いました。

竹下君は中学二年生と一緒に歓迎会や歩いたことによって自分の中で何か変わったことがありますか？

竹下 自分も中二の時に先輩にお世話してもらったことを思い出すと「迷惑をかけ過ぎて、まずったな」と思いました。高二になって初めてお世話をする気配りの大変さ、難しさを感じました。

自分が中二の時は、高校生と思うだけで自分から遠ざかっていたので、その時の高校生に申し訳ないと思いました。

萩往還を歩いて良かったことは？

竹下 今後何かに挑戦する時や、しんどい時、萩往還を歩いた自信が、他のことも乗り越えられる力となりました。



竹下 優希(高三)

表田 大河(中三)

表田 普段、車で移動する距離を、歩いてみて大変さを身にしみて実感しました。

中二と高二みんなで萩往還を歩き、思い出を共有するということについてどう思う？

竹下 同窓会の際に、長い距離みんなで頑張ったと振り返る良い思い出、良い行事だと思います。

これから先輩たちが来年歩くのにどんなことをアドバイスしたいですか？

竹下 長い距離と変わらずに、友達との時間をゆっくり楽しく過ごすと思つて歩いてください。

表田 長い距離を歩くので、荷物は最低限で・・・歩いて良かった？

表田 はい



平成28年度卒業

8期生の慶進

石田衣良「青いエグジット」という小説を、センター試験演習で読みました。反抗期に事故で左足を失い自暴自棄になった少年が、スキューバダイビングに熱中する話です。プールでの訓練を終え、初めて海に潜る彼を陸で見守る両親。ゆつくりと水面に消えていく少年。その時、「ああ、この子たちは慶進^{フェリス}を卒業して、海に潜っていくのだ」と不意に諒解しました。我々大人の知り得ぬ場所、自ら針路を定めながら自分の力で泳いでいくのだ、と。

ただ、そこで不安な気持ちにはなりません。彼らは「楽しむ」ためには「仲間」と「努力」が必要だと知っている。六年間の慶進でのあらゆる学びと経験が、そして六年を共にした仲間が、彼らを支えるはずだ。そう思えたからだと思います。

根本的に他人に優しい学年風土。行事となると強い結束力でどんどん前へ進んでいくエネルギー。何のために学ぶのか、自分をどう活かすのか、将来を考え今の自分と真剣に向き合って苦悩する姿を目の当たりにしてきました。

在校生からは、どんな先輩に見えていたでしょうか。順風満帆に映っていたのでしょうか。決してそんなことはありません。六十四名それぞれに挫折と再生のドラマがありました。それを繰り返し乗り越えていった彼らだからこそ、きつと大丈夫だと信じる事ができます。

彼らは深い海の中で、美しい宝石や海底に沈んだ遺跡を発見するかもしれない。人間が廃棄した粗大ごみや堆積したヘドロに直面するかもしれない。世界の美しさや厳しさに触れながら、そのたびごとに考え工夫して、イルカのようなしなやかさで大海を泳いでいく。そんな六十四名の未来が楽しみで仕方ない！

担任 古川 義郎

Q 慶進の思い出は

“慶進祭”

クラス T シャツのデザインから屋台の飾り付けまで行い、団結力が高まったと思います。

チュロスを仕入れすぎて、ずっと売ったけど、結局売りきれなかったこと。でも楽しかった。

宿泊研修、萩往還、修学旅行、語学研修、修了論文、実力強化合宿など慶進の6年間は実に充実しています。この6年間で慶進生は何を学び、何を得たのでしょうか。また、6年間で過ごした仲間とともに何を培ったのでしょうか。卒業する今だからこそわかる慶進の6年間で変わったもの、変わらなかったものを8期生の声から探ってみましょう。

“萩往還”

萩往還を終えて筋肉痛で一週間苦しみ抜いたこと。

“毎日友達とくだらない話をして
笑った時間”

Q 6年間で変わったことは

“勉強に対する
姿勢”

“自分に自信が
持てるようになった”

“自分から積極的に取り組めるようになった”

Q 6年間で変らなかったこと

“学年の雰囲気”

“友達”

Q 慶進の変ったもの

“校舎”

私たちの学年は常に校舎が工事中だったような気がします。

慶進の建物が6年前とほとんど変った。

Q 慶進の変らないもの

“先生”

先生方が本当に親身になって生徒のことを考えてくださっている。

“学校の雰囲気”

授業に関わったことのない先生も話しかけてくださり、いつもアットホームな感じ

Q 後輩へのメッセージ

“授業は常に全力で！
妥協したら試合終了ですよ”

“今やりたいこと、今できることを全力で
やってほしいと思います”

“6年間はあつという間です。
1日1日を大事に過ごしてください”

“中学校・高校生活を楽しんでください”

“第一志望を早めに決定し、そこに向けて一生懸命頑張る”

“GO FOR IT !”

“慶進の先生方はとても親身になっていろいろして下さるので、
先生方を信頼すると思います”

“最後まで
頑張ってください”

“将来、自身のしたいことができるようにいろんな犠牲をはらってでも成し遂げてください”

| お | 知 | ら | せ |

La photo de Keishin

至誠



■平成29年度 行事予定

6月24日(土)	学校説明会①
7月8日(土)	学校説明会②
8月27日(日)	学力診断テスト
10月21日(土)	入試説明会①
11月18日(土)	入試説明会②



▲学校説明会の様子

慶進でお会いするのを楽しみにしています。

ご不明な点については、慶進中学校・高等学校にお問い合わせください。

TEL 0836-34-1111

この胸像には、「至誠をつらぬき、こよなく教育を愛した」という言葉が刻まれています。社会の変化は目覚しく、劇的に変わっていく時代。「至誠」という言葉にふさわしい「志」を抱く生徒が集う場所であって欲しいという思いは、新たな学び舎と共に新たな歩みを進め始めた慶進中学校・高等学校に関わるすべての人の願いであり、建学草創からの変わらない願いです。



第9回 小さな本箱

数学科 篠田 卓弥先生のおすすめ

『グレートギャツビー』

村上 春樹 訳

この本は、私が尊敬する青年実業家の友人に、おすすめの本として紹介されたものである。

「グレートギャツビー」という小説の原作は、アメリカの小説家であるスコット・フィッツジェラルド氏が一九二五年に執筆した。村上春樹氏以外にもいくつもの翻訳本があり、二〇世紀のアメリカ文学の傑作と称されている。更に、これまで5回も映画化されており、最近では、二〇一三年にレオナルド・ディカプリオ氏が主演の「華麗なるギャツビー」として公開されたのが記憶に新しい。私の友人は三人の翻訳家と、原作である英文のものを読むほどの小説に惹き付けられていた。

そんな名作であるが、私が一番分かりやすいと薦められた村上春樹氏の翻訳本を初めて読んだとき、「小説の魅力も内容もよく分からない」というのが正直な印象であった。しかし、五年前の私では感じるものの出来なかった魅力を感じた。

第一次世界大戦後の経済発展著しい一九二〇年代のアメリカを舞台にし

た、美しくも儚い恋物語で、感慨深い言葉が多く散りばめられた素晴らしい小説であったのだ。そして、更に経典を重ねることで、また違った魅力も感じるかもしれないと期待させるような小説であった。

この小説の中で、私が心に刺さった数多くの言葉があるのだが、その一つである素晴らしい冒頭の文章を紹介する。

「僕がまだ年若く、心に傷を負いやすかったころ、父親がひとつ忠告を与えてくれた。その言葉について僕は、ことあるごとに考えをめぐらせてきた。

「誰かのことを批判したくなるときには、こう考えるようにするんだよ」と父は言った。世間のすべての人が、お前のように恵まれた条件を与えられたわけではないのだ」と、

この小説を読んだ今、人に責任を押しつけるのではなく、寛容な気持ちで現状をより良くしようとする前向きな姿勢が何事にも大切なマインドだと私は考えている。